

『流山市史研究』原稿執筆要領

1 原稿の構成

論文の構成は題目・氏名・本文・注・参考文献の順とします。
研究ノートやその他の文章は論文の構成に準じます。

2 原稿の様式

様式は、A4判縦2段組、行数22行、文字数34文字とし、
図表を含め完全原稿にてご提出ください。

原稿を提出する際は、電子データ（Microsoft Wordで作成したもの）とプリントアウトしたものを各1部提出してください。
提出された原稿は返却いたしません。

3 盗作の防止

文章は新たに書き下ろしたものを提出してください。盗作等の問題が生じないように、原稿の区分に関わらず、執筆者の見解と引用文献の内容がはっきり区別できるよう表現及び表記上の配慮をしてください。

4 数字・記号の表記

数字は原則として漢数字を使用してください。

例) 一、二、三…一〇、一一、一二…一〇〇、二〇〇、三〇〇

ただし、資料番号、測量値などはその限りではありません。

また、資料等の引用文中にあるものは原表記のままとします。

cmなどの単位は、縦中横（縦書きの文書に半角文字を横並びの状態を組み込む）で表記してください。

横書きの場合は、算用数字（半角）を使用してください。

5 年代の表記

年代を表記する場合、その年号が初めて出てきた時のみ、和暦のあとに（ ）で西暦を補ってください。

例) 昭和五三年（一九七八）に「流山市郷土資料館」として

開館し、昭和五九年に「流山市立博物館」と改称した。
二度目以降は和暦のみの記載としてください。
注や参考文献では西暦のみの表記にしてください。

6 引用の書き方

引用は「 」によって示すこととします。ただし、引用文が長文に及ぶ場合は、本文より二文字下げて「 」を付さずに記述してください。

引用した場合は、どこからの引用なのか本文または注で明らかにしてください。

例) 流山市立博物館編『ふるさと流山のあゆみ』一〇頁には「……」と記されている。

7 注の書き方

注の番号は算用数字を使い、()に囲んでください。注は必ず句読点の前に置き、次のように記します。

例) 流山市立博物館編『ふるさと流山のあゆみ』一〇頁には「……」と記されている(1)。

注の書式は次のように記します。

例) 注

(1) 流山市立博物館編『ふるさと流山のあゆみ』流山市教育委員会、二〇一五年。

注は全て文末脚注にしてください。

8 参考文献

引用及び参照した文献は全て原稿の最後にまとめて記してください。参考文献の配列は、和書は著者名の五十音順、洋書は著者名のアルファベット順とし、同一著者のものは年代順にしてください。

参考文献の記し方は次の通りです。

文献の場合

著者または編者『題名』出版社、発行年

例) 流山市立博物館編『ふるさと流山のあゆみ』流山市
教育委員会、二〇一五年

論文の場合

著者「論文名」『掲載雑誌』号数、発行年

例) 桑原護「先土器時代の流山」『流山市史研究』第一号、
一九八三年

ホームページの場合

ホームページ名称 (URL) 最終確認日

例) 流山市立博物館トップページ

(<https://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1001780/1001785/index.html>) 令和四年一月一日確認

なお、参照・照会は原稿受理の段階でアクセスできるホームページに限ります。

9 写真・図表

写真及び図表は必要最小限としてください。白黒印刷での掲載となるため、その点を考慮して作成してください。

写真は写真ごとに、図表は図表ごとに通し番号をつけ、それぞれにタイトルと出典をつけてください。

転載して使用する場合は、どこからの転載なのかを明らかにしてください。また、その場合は、投稿者が転載の許諾などの手続きを完了させてください。

例)



写真 1 関東ローム層 (市野谷)
(流山市立博物館編『ふるさと流山のあゆみ』
流山市教育委員会、2015年、4頁より)

1 0 その他

文末の表現は原則として、「です・ます調」ではなく、「である調」を使用してください。

レイアウト・体裁については編集の都合上変更される場合がありますので、流山市立博物館に一任するものとします。